

学位論文要旨

文化的実践としての読むことの教育評価に関する研究

広島大学大学院 教育学研究科 博士課程後期
文化教育開発専攻 国語文化教育学分野

高瀬 裕人

論文構成

序章 研究の目的と方法

第1節 研究の目的

第2節 研究の方法

第1章 読むことの教育と評価の課題

第1節 読むことの教育の成果と課題

第2節 読むことの教育評価の成果と課題

第2章 文化的実践としての読むことの教育評価の成立条件

第1節 現代アメリカにおける教育評価の展開

第2節 文化的実践としての読むことの教育評価における教師の価値観

第3節 文化的実践としての読むことの教育評価に対する教師の見方

ーフランク・セラフィニ、ピーター・アブラーバックらの提案を手がかりとして

第3章 文化的実践としての読むことの教育評価において求められる教師の専門的力量

第1節 文化的実践としての読むことの評価対象の選択に関わる教師の専門的力量

第2節 文化的実践としての読むことにおける評価情報の解釈に関わる教師の専門的力量

第3節 文化的実践としての読むことの評価方法の選択・運用に関わる教師の専門的力量

第4章 文化的実践としての読むことの教育評価の実際

第1節 文化的実践としての読むことの学習指導と教育評価

第2節 文化的実践としての読むことの教育評価の実際(1)

ードナ・サントマンのリーディング・ワークショップ実践に関する検討を中心に

第3節 文化的実践としての読むことの教育評価の実際(2)

ーエリン・オリバー・キーンのリーディング・ワークショップ実践に関する検討を中心に

終章 研究の総括と展望

第1節 研究の総括

第2節 研究の展望

参考引用文献

謝辞

研究の目的

1 文化的実践としての読むこと

読書は個人的な営みであるとともに文化的実践である。個人的な営みの側面に関していえば、人は何らかの目的・期待をもち、本を手にする。手にした本とさまざまな形で交流しながら読み進める。その交流の中で、あるいはその交流を通して、これまでの自分の知識や認識、経験を振り返り、それらを更新する。そして、本を読んだことに対して充足感を得る。この充足感は、人が再び本を手にし、読み進める源となる。一方で、この読書という営みは、人が生まれておのずと可能になるものではない。たとえば、大人の読み聞かせを聞くという経験にはじまり、ほかの人からの支援を受けながら本との関わり方を自分のものにしていく。つまり、読書

は、子どもが大人の姿を模倣することからはじめ、やがて自分のものにしていくものである。大人は読書が価値あるものだと思うからこそ、読み聞かせを行ったり、子どもが読書することができるようになるための支援をする。子どもは大人の読み聞かせを聞いたり、支援を受けつつ読書する経験を積み重ねる中で読書することの意味や価値を実感する。大人読者と子ども読者の関わりの中で、読書という営み、その営みが持つ意味や価値は、受け継がれてきた。

読書を一つの文化的実践と見なすことは、子どもが読書をしないと一方的に咎める、あるいはそれを一方的に悲観するためのものではない。むしろ、そのように導いている大人の関わり方を子どもの反応をもとにしながら見つめなおすことにアプローチするためのものである。本研究では、秋田喜代美(1998)の言及を参照し、文化的実践を以下のように定義した。文化的実践は、共同体の中で重要だと考えられている行為・活動のことである。文化的実践は、共同体の中に参加することで獲得される。と同時に、共同体の先達によって導かれることで獲得される。それゆえ、文化的実践という概念を用いることで、先達者と参加者との関係性を描き出すことができる。本研究では、〈文化的実践としての〉という言葉を用いる。読むこと、教育評価の双方に係る言葉として用いる。文化的実践としての読むことで目指されるのは、自立して読書行為を行うことができるようになることである。文化的実践としての教育評価で目指されるのは、自立して自らの行為を省察することができるようになることである。

2 国語科読むこと教育における教育評価の課題

これまで、国語科の読むこと教育の目標は自立した読者の育成であることが多くの論者によって指摘されてきた(山元隆春(1994,2004),間瀬茂夫(1995),吉川芳則(1999),井上尚美(2007),杉本直美(2010),八田幸恵(2010)など)。自らの読み方に対して内省しながら自覚的に、本から問題を掘り起し、その問題に対して自らどのような立場に立ち、取り組むかを考えることができる読者の育成が必要であることが主張されてきたのである。このように、自立した読者の育成という目標を明確にし、必要となる内容・方法を提案してきたところに、これまでの国語科の読むこと教育の成果を見出すことができる。

一方で、国語科の読むこと教育の評価は、いまだに「評価」が「評定」と結びつけられて認識される傾向が強いこと、「できる・できない」を強調する評価に終始する傾向が強いことが指摘されている(田近洵一(1996),大内善一(2010)など)。それらの問題をどう乗り越えるかについていまだ不明瞭な状態にある。こうした現状は、子どもの反応に対して教師が導き方をどのように変化させる必要があるかを不明瞭なものにする。それは、子どもの反応に対して本来柔軟性を持つものである、教師の導き方を硬直化させてしまうという結果をもたらすことになる。

これまで、読書は強制することで起こりえないという主張が繰り返されてきた。国語科の読むこと教育の評価は、子どもが読もうという思いや読みたいという思いを抱き、実際に読むことができるようになるうえで、大人に何ができるのかという問題(倉澤栄吉(1956),野地潤家(1978),山元隆春(2007),鶴田清司(2010d)など)に向き合うための基点になりうるものである。しかし、その問題に取り組むための基点になりきれしていないのが現状である。このような現状は、読むこと教育の評価が、文化的実践としての読むことへの学習者の参加を拒むものとして機能してしまっていることを意味する。

3 教育評価における「多次元的评价の思想」の課題

これまでの国語科における教育評価の研究や実践は、評価主体(田近洵一(1996),山本茂喜(1999),松崎正治(1996),高木展郎(2009))、評価方法(山本茂喜(1999),山本茂喜・香川尚子(2002),堀江祐爾(1997),宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭(2004),瀧川靖治(2009),望月実(2011),宮本浩子(2013))、評価の機能(鎌田首治朗(2010),米田猛(2006))という3つの観点の拡張がなされてきた。

これら教育評価における拡張を可能にしたのは、梶田叡一(1992)の言葉を借りれば「多次元的评价の思想」である。しかし、「多次元的评价の思想」において、単にあらゆるものを評価しようとするだけであれば、教育評価は無秩序な状態(益地憲一(2002b),大槻和夫(2009))、無計画な状態(益地憲一(2002b))に陥る。この点に関して、リテラシー教育評価の研究を行うフランク・セラフィニ(2010)は、「あらゆるものごとを評価することはできない」と断言する。それゆえ、セラフィニは「何が重要であるか」の判断にもとづいた教育評価が重要であるというのである。その判断は「私たちの価値観、歴史、そして文化を反映するものである」という。この言及を参考に考えると、無秩序や無計画という問題は、教育評価において重んじられるはずの教師の判断に対する認識が等閑視されるために引き起こされるものだと捉えることができる。

以上のことを踏まえ、本研究の仮説は、次のように設定した。

1. 読書を文化的実践としての読むこととして捉える。学習者が自立して読書行為・活動を行うために、教師の導きが必要である。教師の導きは、一定・一律なものではなく、学習者の反応に応じて変化する。それゆえ、適切な教育評価が行われることが必要ではないか。
2. 教師は、さまざまな評価方法を用いることができる。教師が「価値観、歴史、文化を反映」した判断を下し、教育評価に関する専門的力量を活かした教育評価を行うことで、学習者に自立した読者になるための方法を具体的に示すことができるのではないか。
3. 教師が一方的に学習者を評価するのではなく、学習者自身も自らの読書行為・活動を評価する。読むことの教育評価は、教師と学習者が協同して行うものである。その際、教師と学習者がそれぞれの評価を突き合せていくことになる。それゆえ、教師と学習者の双方の立場から、次のようなものになると想定することができるのではないか。教師にとって、読むことの教育評価は読書行為を評価することを伝える場なのではないか。学習者にとって、読むことの教育評価は自らの読書行為を評価することを学ぶ場なのではないか。

そうであるならば、読むことの教育評価自体も文化的実践ではないか。つまり、文化的実践としての教育評価であると捉えることができるのではないか。

本研究では、これらの仮説を検証することを通して、文化的実践という視座から読むことの教育評価を捉え直し、自立した読者を育成するための教育評価の在り方について考究する。本研究では、国語科の読書に関する学習指導において、教師と学習者が協同し自立した読者へと成長することを目指すために必要となる継続的な教育評価の在り方についての理論を構築することを目的とする。

上記に示した目的を達成するために、本研究では、次の諸課題を設定した。

- ① これまでの国語科においてどのように読書教育が展開されてきたかを把握する。そのことを通して、文化的実践としての読むことの教育、文化的実践としての読むことの教育評価に

において求められる方向性を見定める。(仮説1、第1章)

- ② 近年アメリカ合衆国で、国家レベルにおいて競争の原理にもとづく教育評価が展開されている。それに対して競争の原理にもとづく教育評価に回収されえない教室レベルでの教育評価の在り方を探求する動きが活発になっている。こうしたアメリカ合衆国の議論は、わが国の読書教育における教育評価の課題に先進的に取り組んでいるものであると見做すことができる。アメリカ合衆国における議論を参照し、①で見定めた方向性を具体化するための糸口を探る。(仮説1・2、第2章)
- ③ 文化実践としての読むことの教育において自立した読者を育てていくために必要となる教師の教育評価に関する専門的力量を解明する。(仮説2、第3章)
- ④ ②と③を踏まえ、授業中での教育評価の展開に注目し、その中での教師と学習者がどのような関わり方をしているかを分析し、その意味を明らかにする。その際、教師がどのような判断を下しているか、その判断をもとにどのような手立てを講じているかに注目し分析することで、文化的実践として読むことの教育評価の具体的な在り方を明らかにする。(仮説2・3、第4章)

研究の方法

上記の課題を遂行するために、本研究では以下の3つの方法を用いた。

- (1) 先行研究における読書、読書教育における教育評価に対する見方についての分析・整理
- (2) 読むことの教育評価研究に関するアメリカ合衆国の文献の調査・考察
- (3) 理論的検討と具体的な評価実践事例の分析・考察

各章の概要

第1章 読むことの教育と評価の成果と課題

本章では、わが国の読むこと教育の成果と課題を整理することを通して、読書教育における教育評価に求められる方向性を見定めた。

これまで、わが国では「読書」と「読解」が区別されて論じられてきた。この区分に一定の有効性が認められるものの、学習者が「読解」において学習したことの意味を見いだせないなどの問題を引き起こされてきたことが指摘されていた。こうした問題を解決するために、「読解」で学んだことを実際の目的の中で活用する機会を充実させることが必要になる。このことを実現する具体的な方法として、「読書指導」が「読解指導」を包み込むものとして位置づけなおす方向性が必要であることを見通した。

この方向性の中で読書教育を推進する際に求められる教育評価において、次の四つの方向性が必要となることを見定めた。一つ目は、教師が学習者と協同して学習を編み直すものにするという方向性である。二つ目は、読書技術を評価することを通して読書意欲を喚起するという方向性である。三つ目は、個に応じながら個人に寄り添う評価という方向性である。四つ目は、教師と学習者が対話しながら評価するという方向性である。

第2章 文化的実践としての読むことの教育評価の成立条件

本章では、現代のアメリカ合衆国の教育評価の議論の動向を把握し、文化的実践としての読むことの教育評価の成立のための条件について検討した。

第1項では、現代のアメリカ合衆国の教育評価の議論を整理した。アメリカ合衆国は、国家レベル、州レベルにおいて標準テストが強固に位置づいている。その標準テストは、学校間、教師間の競争を煽るものである。この状況に対して、教師が評価主体として、教育評価に関する専門的力を活かす教室での教育評価が重要だという主張が生まれてきた。そこで目指されてきたのは、競争の原理にもとづく教育評価ではなく、教育実践の原理にもとづく教育評価である。以上のことを踏まえ、文化的実践としての読むことの教育評価が成立させるために、一人ひとりの学習者に寄り添い、個に応じた教育評価を実現することが重要であることを明らかにした。また、そのような教育評価の実現するうえで、教師の価値観、教育評価に対する〈スタンス〉、教育評価の扱い方が、重要な問題として前景化されることになることを明らかにした。

第2項では、教師の価値観に焦点化し考察した。教師が教室で何を重視するのかによって教育評価は左右される。この点を重視したリー・ガルダとマイケル・グレイブスによって提案された〈真正の評価〉論は、読むことの教育評価を、教室で重んじる読書についての価値観を共有する過程として描き出すものであった。彼女たちの〈真正の評価〉論は、学習者たちが読書において成功経験を積んでいくことを重視する中で提案されたものであった。彼女たちが主張するように、学習者が読書において成功経験を積んでいくために、教師が「足場がけ」「足場はずし」について考える必要がある。この「足場がけ」や「足場はずし」を考えることが、教師が文化的実践としての読むことにおける導き方を考えることになる。教室での教育評価は、「足場がけ」や「足場はずし」を適切に行うために必要である。適切な「足場がけ」や「足場はずし」が行われることによって、学習者たちは読書において成功経験を積むことができるとともに、自分が自立した読者になるために何が必要なのかを学ぶ。これらが、教師が教室で重んじる読書についての価値観を意識することで可能になることであることを明らかにした。

第3項では、教育評価に対する〈スタンス〉と教育評価の扱い方について検討した。教師が読書についての価値観を反映させるために、教育評価に対してどのような〈スタンス〉をとるかを考える必要がある。フランク・セラフィニの論は、この教育評価に対する〈スタンス〉に関して深く掘り下げたものであった。セラフィニによれば、学習指導のための教育評価は、教師が学習者について理解するためのものである。その際、教師が、さまざまな評価方法を用いて学習者を理解する〈理解/探究としての評価・スタンス〉をとることが重要である。一つひとつの評価方法が、特定の側面をクローズアップすると同時に、見通すことができる範囲がおのずと制限されているからである。〈理解/探究としての評価・スタンス〉は、教室での教育評価は「学習者と一緒に行う」ことが求められることを示すものでもある。この点から、教室での教育評価の扱い方が前景化される。そこで重視されるのは、学習者に自己評価を行わせるとともに、教師のもつ評価規準・基準を学習者に開いていくことである。この点をさらに掘り下げたのが、ピーター・アフラバックらである。彼らは、学習者が自らの読書行為を自ら評価できるようにするために、教師が教育評価の方法について説明しモデルを示すことが重要だと主張していた。それにより、学習者たちが評価規準・基準を内面化することができるためである。

以上の検討から、文化的実践としての読むことの教育評価の成立のための条件について以下のことが明らかになった。

- ・アカウントビリティを目的とした教育評価と、学習指導の向上を目的とした教育評価をしっかりと区別すること。教室での教育評価では、学習指導の向上を目的とした教育評価に重点を置くこと。
- ・教師が、自らが持っている読書についての価値観をしっかりと意識すること。教室での教育評価に、その価値観を反映させること。
- ・教師が〈理解/探究としての評価・スタンス〉を採ること。教育評価を学習者理解のために用いる道具として捉えること。
- ・教室での教育評価を、学習者が自らの読書行為を評価するための規準・基準について学ぶ場として扱うこと。学習者がその規準・基準を徐々に内面化できる場として扱うこと。

第3章 文化的実践としての読むことの教育評価において求められる専門的力量

本章では、文化的実践としての読むことの教育評価において求められる専門的力量について、評価対象の選定に関する専門的力量、評価情報の解釈に関する専門的力量、評価方法の選択・運用に関する専門的力量の3つの観点から検討した。

第1項では、マイケル・プレスリーとピーター・アフラバックの論を手がかりに、評価対象の選定に関する専門的力量について検討した。教師は、読書する中で人の頭の中で何が起きているかを捉える必要がある。彼らは、読者の頭の働かせ方を、「本に対する処理」として抽出し、読書前・中・後という時間軸に即して分類・整理した。そして、分類・整理した「本に対する処理」から重要なものを精選することで、熟達した読者の読書行為モデルを構築した。教師にとって、読書行為の全体像をどのように描くか、どこに焦点化することになるかという点を考えながら、評価対象を選定することが必要である。彼らの熟達した読者の読書行為モデルは、そのよりどころとなるものである。教師がこうしたモデルを持つことで、学習者の読書行為の中で注意を向けるべきものを明確にすることができる。

第2項では、ジュディス・ランガーの論を手がかりに評価情報の解釈に関する専門的力量について検討した。教師は学習者の発言や記述から、学習者の内部に生じる出来事を推測することが必要となる。それは、教師が学習者の発言や記述を解釈することではじめて可能になる。彼女は、読者の内部に生じる出来事を〈像形成〉であると定義した。読者が構築する〈像〉は、単純に解釈できたものと解釈できなかったものに二分されるものではない。彼女は、こうした複雑な〈像〉を解釈するために、〈方略〉、〈意味への方向性〉、〈スタンス〉という3つの分析枠組みを創出した。彼女のこれら3つの分析枠組みは、本を読む中で何を目指しているか(〈意味への方向性〉)、本とどのように向き合っているか(〈スタンス〉)、具体的に何をしているか(〈方略〉)という観点から解釈するものであった。教師がこうした解釈の観点を持つことは、教室の中で得られた評価情報から、学習者の読書行為の進捗状況を判断することを可能にする。また、それを学習者と対話する中で活かすことができる。

第3項では、ピーター・アフラバックの論を手がかりに評価方法の選択・運用に関する専門的力量について検討した。彼は、さまざまな教育評価を用いる際に、「私たちは何を評価する

のか」、「どのように(そしていつどこで)私たちは評価するのか」、「なぜ私たちは読むことの評価をするのか」という3つの問いに答えることが重要であると主張する。評価方法が、特定の状況において特定の教師と学習者が関わる中で機能するものだからである。この考えのもとに提案されたのが、「結果」「実用性」「役割と責任」「信頼性」「妥当性」の5つの観点からなるCURRVモデルである。これら5つの観点から検討することで、特定の状況の中で実施される教育評価の適切さを吟味・検討することができる。こうした「評価を評価する」ためのモデルを教師がもつこと、そのモデルを用いて「評価を評価」することが、教室での教育評価を継続的で体系的なものにすることにつながる。

以上の検討から、文化的実践としての読むことの評価において求められる専門的力量に関して以下のことが明らかになった。

- ・評価対象の選定に関する専門的力量は、教師が育てたい読者像を具体化するものである。読者像を具体化することで、学習者の読書活動の中で注目すべき点、取り上げるべき点を明確にすることになる。
- ・評価情報の解釈に関する専門的力量は、教師が学習者の読書における思考の流れを具体的に把握するためのものである。また、教師が学習者の読書活動を解釈し具体的に把握することで、学習者個々人に応じた指導・支援が可能になる。
- ・評価方法の選択・運用に関する専門的力量は、教師が教室で計画的で継続的な教育評価を実施することを可能にするものである。

第4章 文化的実践としての読むことの評価の実際

本章では、アメリカ合衆国で提案されたリーディング・ワークショップを手がかりとして、文化的実践としての読むことの評価の実際について検討した。

第1項では、リーディング・ワークショップを実践する諸家の言及について考察した。リーディング・ワークショップを実践する教師たちの多くが、教育評価が重要であると主張していることを確認した。そこで重視されるのは、日々の授業の中に埋め込まれた教育評価であり、形成的評価を核として進めていくことであった。

第2項では、ドナ・サントマンの実践を手がかりに教育評価の具体的な展開について検討した。彼女は、質問法と観察法を用いた〈初期評価〉をもとに、学習者の読書に対する見方・考え方を把握する。それをもとに指導すべき理解方略の精選を行っていた。日々の授業の中で行うカンファレンスで、学習者がどのように読書を進めてきたかを把握するとともに、読書を進めるために必要となることを助言していた。こうした流れの中で展開される教育評価実践が、学習者への適切な導き方を考え、実践していくためのものとして機能することを明らかにした。

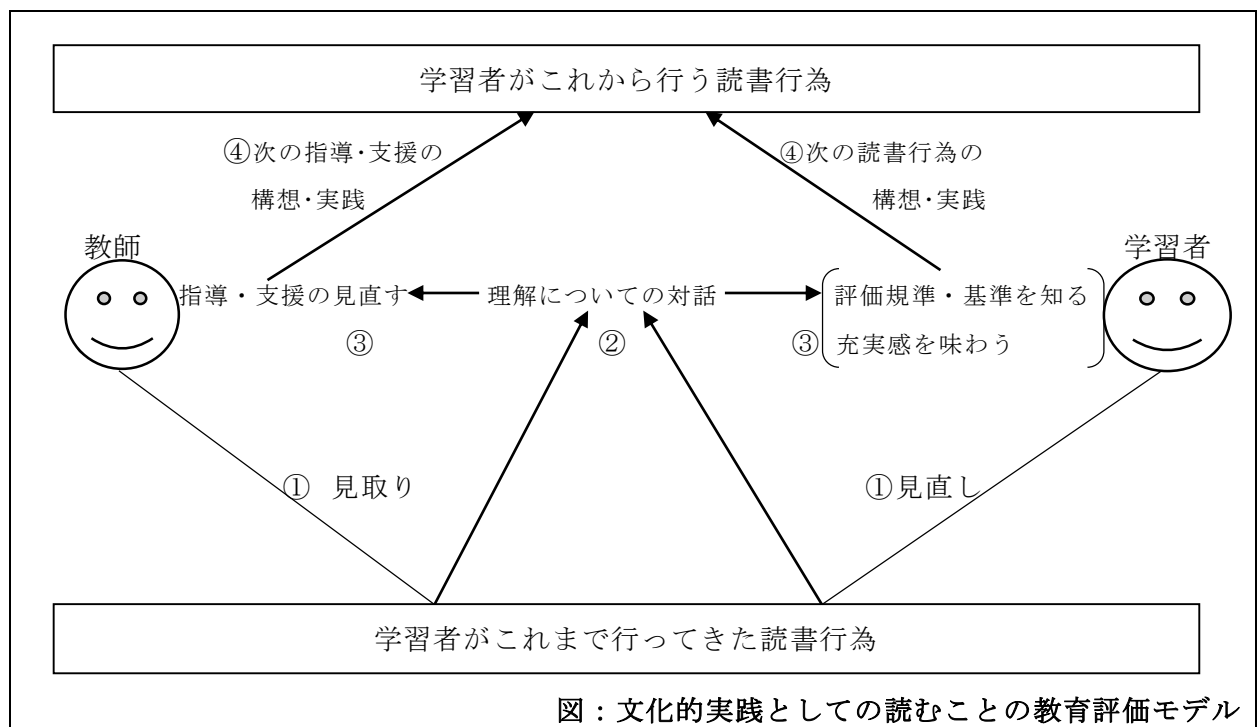
第3項では、エリン・オリバー・キーンの実践を手がかりに、リーディング・ワークショップでの教育評価が学習者に対して持つ意味について検討した。彼女は、カンファレンスで教師が学習者の発言に「耳を傾け理解する」ことが重要であるという。彼女は、カンファレンスで学習者の発言に「耳を傾け理解する」ために、理解方略の精選とともに〈理解の成果モデル〉の作成を行う。これらを用いることで、学習者が駆使した理解方略を特定するとともに、理解方略を用いることで辿り着いた理解の成果を特定することを可能になる。これら二つのことを

学習者と一緒に見極める点が、カンファレンスの鍵となるものであった。キーンの教育評価は、次の二つの機能を果たすことを指摘することができる。一つは、学習者が理解方略を駆使することが理解の成果をもたらすことを実感する機会として機能することである。二つは、学習者が読書を進めるために必要となる理解方略と、それに関する評価基準を知る機会として機能することである。このことから、学習者が構築した理解について教師と学習者が対話することが学習者の読書活動を推進する力となると言える。

以上の検討から、文化的実践としての読むことの教育評価の実際について以下のことが明らかになった。

- ・教師は、教育評価を、学習者を理解するためのものとして利用している。それが、教師の指導・支援の構想・実践を具体化するものとして機能している。そのために、教師は教育評価において求められる専門的力を発揮している。
- ・学習者が、教師と本の理解について対話することで、読み進める中で自らが構築してきた理解について自覚化することになる。その自覚化は、学習者に本を読むことができた充実感をもたらすものである。
- ・教師と学習者が本の理解について対話する場合は、教師にとって、学習者の読書行為を評価する場である。学習者にとって、自らの読書行為を振り返り自己評価する場である。
- ・その場における教師と学習者のやりとりは、教師と学習者が自立した読者になるために必要となる評価規準・基準を共有するものとして機能する。

以上の検討を踏まえて作成したのが、以下の〈文化的実践としての読むことの教育評価モデル〉図である。



この図は、学習者の読書活動の途上において、教師と学習者が協同して行う理解についての対話の場を、文化的実践としての教育評価として位置付けたものである。この教育評価の場に

において、教師と学習者は協同しながら、これまでの読書行為を振り返り、これからの読書行為を構想することになる。そのことで、教師は、学習者の発言・反応を手がかりとして、これまでの指導・支援を見直し、次の指導・支援を構想し実践することができる。学習者は、教師の発言・反応を手がかりとして、自らの読書行為を振り返るための規準・基準を明確なものにし、自らの読書行為の成果を確かめたうえで読書による充実感を味わうことができる。こうした教育評価の場を位置付けることが、学習者の次の読書行為の構想・実践の源になる。

終章 研究の総括と展望

本研究での検討を踏まえ、次の2点を指摘することができると思う。

- ① 学習者を読書へと誘うために、そして学習者を自立した読者へと成長させるために、教師が教育評価に関する専門的力量を活かし、学習者に寄り添うことが必要であることを明らかにした点。
- ② アメリカ合衆国におけるリーディング・ワークショップの実践に関する検討を通して、学習者が読書において構築した理解について教師と学習者が対話するという、文化的実践としての読むことの教育評価のモデルを見出した点。

本研究での考察を踏まえて提示した〈文化的実践としての読むことの教育評価モデル〉によって、わが国におけるこれまでの読書教育における教育評価実践を位置付け直すこと、大人読者と子ども読者との対話・交流を核とした教育評価をこれからの読書教育の中に位置付けることが可能になったと考える。わが国の読書教育の中に教育評価を位置付けることで、大人読者と子ども読者が協同し、自立した読者になることを目指すことのできる読書教育、実際に自立した読者へと成長することができる読書教育の道をより確かに切り開くことができると思う。

以下に、本研究において残された課題を三点示す。一点目の課題である。教室空間におけるやりとりは、教師と学習者、学習者と学習者との間で交わされる。本研究での検討は、とくに教師と学習者とのやりとりに焦点を当ててきた。それは、教師と学習者とのやりとりに文化的実践としての読むことの教育評価の基礎があるからである。一方で、教室の中で学習者を取り巻くものに目を向けること、学習者同士のつながりを含めて文化的実践として読むことの複雑さを解明することが重要な課題として浮かびあがってきた。学習者同士の次元で見られる諸要素を位置付ける議論がさらに必要となる。

次に2点目の課題である。第4章第2節、第3節で取り上げた、〈ループリック〉や〈理解の成果モデル〉は、学習者と教師が共有することを通して作り上げられたものであった。学習者と教師が共有する途上でどのような変化が生まれてきたのか、それが何によって生まれきたのかをより詳細に解明する必要がある。

最後に3点目の課題である。上記2点の課題について検討するとともに、本研究で示した〈文化的実践としての読むことの教育評価モデル〉の有効性を、わが国の事例をもとに実証することが必要である。わが国における実証的検討によって、国語科において文化的実践としての読むことの教育評価をより望ましい形で位置付けるための方策をより確かなものにする可以考虑。

参考引用文献一覧

【和文】

- 赤星晋作(2007)『アメリカの教育の諸相』,学文社.
- 秋田喜代美(1998)『読書の発達心理学—子どもの発達と読書環境』,国土社.
- 秋田喜代美・石井順治(2006)『ことばの教育と学力』,明石書店.
- 秋田喜代美・黒木秀子(2006)『本を通して絆をつぐむ—児童期の暮らしを創る読書環境—』,北大路書房.
- 秋田喜代美・庄司一幸編, 読書コミュニティーネットワーク著(2005)『本を通して世界と出会う 中高生からの読書コミュニティーづくり』,北大路書房
- 足立幸子(1997)「状況的認知論に基づく読みの指導に関する一考察—Liz Waterland の教育実践の分析—」『人文科教育研究』,第 24 号,pp.41-51
- 足立幸子(2004)「読書力評価の国際標準にむけての一考察(2)—アメリカの NAEP を中心に—」,『人文科教育研究』,第 31 号,pp.43-63
- 足立幸子(2005)「アメリカの読書力評価」全国国語教育学会編『国語科教育研究第 108 回山梨大会研究発表要旨集』,pp.35-38
- 足立幸子(2006)「〈読解力〉をどう捉え評価するか」,『教育フォーラム 38 いま求められる〈読解力〉とは』,pp.28-38
- 足立幸子(2007)「アメリカにおける読むことの教育の現状—PISA2000、NAEP の結果分析を中心に—」,府川源一郎(研究代表者)『平成 15 年度～平成 16 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(1))研究報告書 国際化、情報化社会が必要とする新しい読み書き能力の範囲と内容についての研究』,pp.5-14
- 足立幸子(2010)「読みのレベルを診断するベンチマーク・アセスメント・システム」『新潟大学教育学部研究紀要』,第 3 巻第 1 号,pp.1-6
- 足立幸子(2013)「読書力を評価するマイクロ・レベル・テスト」『新潟大学教育学部研究紀要』,第 5 巻第 2 号,pp.127-132
- 安彦忠彦(1987)『自己評価—「自己教育論」を超えて—』,図書文化.
- 天野正輝(編)(2002)『教育評価論の歴史と現代的課題』,晃洋書房.
- 石井英真(2011)『現代アメリカにおける学力形成論の展開—スタンダードに基づくカリキュラムの設計—』東信堂.
- 石川雅春(2009)「「優劣の彼方に」—中学校での現状を中心に—」『月刊国語教育研究』No.443,pp.10-15
- 石黒広昭・亀田達也(編)(2010)『文化と実践—心の本質的社会性を問う—』,新曜社
- 市川伸一(2004)『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策—』,小学館.
- 井上尚美・田近洵一・根本正義編著(1984)『国語科の評価研究』,教育出版.
- 井上尚美(2007)『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—〈増補新版〉』,明治図書.
- 井上敏夫(1969)「「読解指導」と「読書指導」」,『国語科教育』,第 16 集,pp.29-36
- 入部明子(2008)「アメリカ—NAEP と NCLB 法」,府川源一郎(研究代表者)(2008)『平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究報告書 PISA 及び国内国語学力調査の比較を通じた新しい読み書き能力の範囲と内容の研究』,pp.2-7
- 岩永正史(2001)「「認知科学の応用」から「国語科教育の認知科学」へ—1986 年から 2001 年の動向をもとに—」,『山梨大学教育人間学部紀要』第 3 巻第 1 号,pp.207-213
- 植西浩一(1997)『国語科自己評価法の開発』,明治図書.
- 植西浩一(2011)「フィードフォワードする評価」,『月刊国語教育研究』No.466,pp.16-21
- 上淵寿(2004)「達成目標論の最近の展開」,上淵寿編『動機づけ研究の最前線』,北大路書房,pp.88-107

- 遠藤貴広(2003)「G.ウィキンズの教育評価論における「真正性」概念―「真正の評価」論に対する批判を踏まえて―」,『教育目標・評価学会紀要』,第13号,pp.34-33
- 遠藤貴広(2004)「G.ウィキンズの「看破」学習―1980年代後半のエッセンシャル・スクール連盟における「本質的な問い」を踏まえて―」,『教育方法学研究』,第30巻,pp.47-58
- 遠藤貴広(2005)「G.ウィキンズのカリキュラム論における「真正の評価」論と「逆向き設計」論の連関―「スタンダード」概念に注目して―」,『京都大学大学院教育学研究科紀要』,第51巻,pp.262-274
- 遠藤貴広(2012)「NCLB法制定後の米国エッセンシャル・スクール連盟におけるパフォーマンス評価を組み込んだアカウントビリティ・システムの展開―ニューヨーク・パフォーマンス・スタンダード・コンソーシアムの事例に―」,『福井大学教育地域学部紀要』,第2巻,pp.161-169
- 大内善一(2010)「読書生活の発展・充実に資する評価」,『教育科学国語教育』,2010年3月臨時増刊号,pp.92-94
- 大槻和夫(2002)「目標論・評価論としての国語教育実践学の在り方」,『国語科教育』,第52集,pp.8-9
- 大槻和夫(2009)「国語科教育における評価」,全国大学国語教育学会編『国語科教育実践・研究必携』学芸図書,pp.42-49
- 大槻和夫(2010)「国語科教科内容の「系統性」確定上の問題点と今後の方向」,科学的『読み』の授業研究会編『国語科の内容の系統性はなぜ100年間解明できなかったのか―新学習指導要領の検証と提案―』,学文社,pp.157-164
- 大場正太(2007)「国語科学習場面におけるQAR(Question Answer Relationship)の意義」,『横浜国大國語教育研究』,第26号,pp.96-107
- 大村はま(1984)『大村はま国語教室』第7巻、第8巻、筑摩書房。
- 甲斐雄一郎(2008)「「読書共同体」作りの過程における手引きの機能」,桑原隆編『新しい時代のリテラシー教育』,東洋館,pp.222-233
- 梶田叡一(1992)『教育評価[第2版]』,有斐閣
- 梶田叡一(1994)『教育における評価の理論I 学力観・評価観の転換』,金子書房。
- 加藤理(1998)「子どもの育ちと文化」,浅岡靖央・加藤理編著『子どもの育ちと文化』相川書房,pp.6-22
- 金子守(2011)「言語の学力と評価」日本国語教育学会編『国語教育総合辞典』,朝倉書店,pp.183-193
- 鎌田首治朗(2010)「指導と評価の一体化、PDCA」梶田叡一・加藤明監著『改訂 実践教育評価辞典』,文溪堂,pp.132-133
- 上谷順三郎(2006)「読書生活を紡ぐ」,『月刊国語教育研究』,No.410,pp.2-3
- 北川秋男編著(2009)『現代アメリカの教育アセスメント行政の展開―マサチューセッツ州(MCASテスト)を中心に―』,東信堂。
- 吉川芳則(1999)「自立した読者を育成する説明的文章の学習指導研究：第6学年「人間がさばくを作った」の場合」,『学校教育学研究』,第11号,pp.111-120
- 吉良直(2009)「どの子も置き去りにしない(NCLB)法に関する研究―米国連邦教育法の制定背景と特殊性に着目して―」『日本教育大学院大学紀要 教育総合研究』,第2巻,pp.55-71
- 吉良直(2012)「米国NCLB法制定の政治的背景に関する研究―二大政党の教育政策の変遷と妥協に着目して―」『日本教育大学院大学紀要 教育総合研究』,第5巻,pp.1-18
- 久富善之・田中孝彦編著(2005)『希望をつぐむ学力』,明石書店
- 倉澤栄吉(1956)『読解指導』,朝倉書店
- 倉澤栄吉(1971/1993)「読書指導の原理」,飛田多喜雄・野地潤家・藤原久雄(監修)『国語科教育基本論文集成 第18巻 国語科読書指導論』,明治図書,pp.126-137

- 倉澤栄吉(1988)『倉澤栄吉国語教育全集 11 情報化社会における読解読書指導』,角川書店.
- 桑原隆(1992)『ホール・ランゲージ・言葉と子どもと学習 米国の言語教育運動-』,国土社.
- 桑原隆(1994)「読解指導と読書指導の統合」,『月刊国語教育研究』,No.267,pp.2-3
- 桑原隆(1996)『言語生活者を育てる一言語生活論&ホール・ランゲージの地平』,東洋館.
- 桑原隆(編著)(2012)『豊かな言語生活者を育てる一言語の単元開発と実践-』,東洋館.
- 上條晴夫編著(2004)『ワークショップ型授業で国語が変わる』,小学校編・中学校編,図書文化社.
- 甲田直美(2009)『文章を理解するとは-認知の仕組みから読解教育への応用まで-』,スリーエーネットワーク.
- 米田猛(2006)「国語科の授業で育成した学力をどのように評価するか?」『日本語学』vol.25, No.2,pp.70-76
- 佐伯胖(1995)『「学ぶ」ということの意味』,岩波書店.
- 佐伯胖(2003)『「学び」を問い続けて-授業改革の原点-』,小学館.
- 佐伯胖(2004)『「わかり方」の探求-思索と行動の原点-』,小学館.
- 佐藤公治(1996)『認知心理学からみた読みの世界-対話と協同的学習をめざして-』,北大路書房.
- 三宮真智子(編著)(2008)『メタ認知-学習力を支える高次認知機能-』,北大路書房.
- 杉本直美(2010)『自立した読み手が育つ 読書生活デザイナー-子どもが変わる読書指導-』,東洋館.
- 世羅博昭編著(2005)『6年間の国語能力表を活かした国語科授業づくり』,日本標準.
- 全国大学国語教育学会編(1983)『国語学力論と実践の課題』,明治図書.
- 全国大学国語教育学会編(1984)『国語科評価論の実践の課題』,明治図書.
- 高木光太郎(2012)「ワークショップの評価」, 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎(編)『ワークショップと学び 3まなびほぐしのデザイン』,東京大学出版社, pp.281-299
- 高木展郎(2003)『ことばの学びと評価-国語科授業への視覚-』,三省堂.
- 高木展郎(2009)「「評価」を通して学校教育を問い直す」,『月刊国語教育研究』,No.443,pp.4-9
- 高木まさき(2008)「改訂の6つのポイント-意義と具体化の方向性-」,『実践国語研究』,No.291,pp.9-12
- 瀧川靖治(2009)「登場人物や作者の思いなどを想像する力を育成する授業」,西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価-パフォーマンス課題とルーブリックの提案-』,学事出版,pp.22-33
- 田近洵一(1997)「「知」の探索としての〈読み〉の授業-読解・読書の構造的な見直し-」,『実践国語教育研究』No.177,pp.6-11.
- 田近洵一編(1996)『国語科の新視点⑥ 自ら学ぶ力を育てる 国語科の評価』,国土社.
- 田中耕治(2002)『指導要録の改訂と学力問題-学力評価論の直面する課題-』,三学出版.
- 田中耕治編著(2003)『教育評価の未来を拓く-目標に準拠した評価の現状・課題・展望-』,ミネルヴァ書房.
- 田中耕治(2004)『学力と評価の“今”を読み解く-学力保障のための評価論入門-』,日本標準.
- 田中耕治(2008a)『教育評価』,岩波書店.
- 田中耕治(2008b)「学力評価と教育評価研究」,『教育學研究』,第75巻第2号,pp.2-12
- 田中耕治(2011)「これからの評価とは-「表現」を活かす「パフォーマンス評価」」,『月刊国語教育』,Vol.30, No.13, pp.50-53
- 田中耕治編著(2011)『パフォーマンス評価-思考力・判断力・表現力を育む授業づくり-』,ぎょうせい.
- 田中耕治・森脇健夫・徳岡慶一(2011)『授業づくりと学びの創造』,学文社.
- 田中耕治(2013)『教育評価と教育実践の課題-「評価の時代」を拓く-』,三学出版.

- 塚田泰彦(2001)『語彙力と読書-マッピングが生きる読みの世界-』,東洋館.
- 塚田泰彦(2005)「どのような文脈を包摂して文学教育を再構築するか」,田中実・須貝千里(編著)『これからの文学教育のゆくえ』,右文書院,pp.275-287
- 鶴田清司(2003)『国語科の基礎学力を育てる—学力保障・言語技術・絶対評価—』,明治図書.
- 鶴田清司(2010a)「教育評価としての学力調査のあり方—学力調査の結果を授業の改善に生かす—」,全国大学国語教育学会『国語学力調査の意義と問題』,明治図書,pp.14-27
- 鶴田清司(2010b)「パフォーマンス評価の導入とその留意点」,『教育科学国語教育 2010年7月臨時増刊号』,pp.80-82
- 鶴田清司(2010c)「国語科の教科内容論の展望と今後の課題—「読むこと」領域を中心に」,科学的『読み』の授業研究会編『国語科の内容の系統性はなぜ100年間解明できなかったのか—新学習指導要領の検証と提案—』,学文社,pp.165-172
- 鶴田清司(2010d)「読書感想文における読書技術の指導と評価—(解釈)と(分析)の視点から—」,『教育科学国語教育』,2010年3月臨時増刊号, pp.89-91
- 寺井正憲(2008)「読書生活を豊かに営み効果的に読む能力・態度を育成する」,『実践国語研究』,No.291,pp.5-8.
- 滑川道夫(1970)『読解読書指導論』,東京堂出版.
- 滑川道夫(1976)『現代の読書指導』,明治図書.
- 難波博孝・三原市立三原小学校(2007)『PISA型読解力にも対応できる 文学体験と対話による国語科授業づくり』,明治図書.
- 難波博孝・山元隆春・宮本浩治編著(2012)『読書で豊かな人間性を育む 児童サービス論』,学芸図書.
- 西岡加名恵(2002a)「米国におけるポートフォリオ評価法の実践—クロー・アイランド小学校の事例を中心に—」,天野正輝編『教育評価論の歴史と現代的課題』,晃洋書房,pp.151-173
- 西岡加名恵(2002b)「第2章 教育評価の方法」,田中耕治(編著)『新しい教育評価への挑戦 新しい教育評価の理論と方法[I]理論編』,日本標準, pp.33-97
- 西岡加名恵(2003)『教科と総合に生かすポートフォリオ評価法—新たな評価基準の創出に向けて—』,図書文化社.
- 西岡加名恵(2005)「ウィキーズとマクタイの「逆向き設計」論の意義と課題」,『カリキュラム研究』,第14号,pp.15-29
- 西岡加名恵編著(2008)『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』,明治図書.
- 西岡加名恵・田中耕治編(2009)『「活用する力」を育てる授業と評価—パフォーマンス課題とルーブリックの提案—』,学事出版.
- 野地潤家(1978)『個性読みの探究』,共文社.
- 野地潤家(1997)「国語教育と読書指導—個性読みの育成を—」,『教育と医学』,第45巻第1号,pp.41-46
- 野地潤家(2005)「読むことの機能と教育—その史的展開—」,倉澤栄吉・野地潤家監修『朝倉国語教育講座2読むことの教育』,朝倉書店,pp.1-25
- 橋本重治(著)/(財)応用教育研究所(改訂版編集)(2003)『2003年改訂版 教育評価法概説』,図書文化社.
- 波多野宜余夫・稲垣佳代子(1983)「文化と認知—知識の伝達と構成をめぐって—」,坂元昂編(1983)『現代基礎心理学 7 思考・知能・言語』,東京大学出版会,pp.191-210
- 八田幸恵(2010)「国語科の目標を設定する—活動とスキル・トレーニングを乗り越えて—」,『教育』,第60巻第11号,pp.70-78
- 浜本純逸(1996)『文学を学ぶ・文学で学ぶ』,東洋館出版.
- 浜本純逸(2005)「これからの読むことの学習指導—認識を広げ、確かな国語学力を育てる—」,倉澤栄吉・野地潤家監修『朝倉国語教育講座 2読むことの教育』,pp.157-182

- 浜本純逸(2010)「国語学力を育てる単元学習」,日本国語教育学会編『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造 I 理論編』,東洋館出版,pp.34-45
- 浜本純逸監著(2010)『文学の授業づくりハンドブック』,第1巻～第5巻,溪水社.
- 広瀬節夫(2009)「なぜ本を読むのかーもう一つの自己を求めてー」,『月刊国語教育研究』No.443,pp.36-37
- 府川源一郎(1995)『文学すること・教育することー文学体験の成立をめざしてー』,東洋館.
- 府川源一郎・長編の会(1995)『読書を教室にー「読み」の授業を変えよう小学校編』,東洋館.
- 府川源一郎・長編の会(1996)『読書を教室にー「読み」の授業を変えよう中学校編』,東洋館.
- 藤井知弘(2002)「国語科を核とした読書カリキュラムの創造」,『岩大語文』,第9号,pp.56-42
- 細恵子(2012)「「読むこと」の学習で育てる読書力の考察ーアメリカのリテラチャー・サークルのヒントと日本の国語教科書の手引きの比較を通してー」,『国語教育思想研究』,第4号,pp.77-86
- 堀江祐爾(1993)「国語科教育における<新しい>学力観と評価観:学力観・評価観を上げるための指針」,『兵庫教育大学教科教育学会紀要』第6号,pp.52-61
- 堀江祐爾(1994)「アメリカにおける文学を核にした国語科指導」,『兵庫教育大学研究紀要』,第14巻,pp.39-52
- 堀江祐爾(1996)「アメリカにおける読むことの指導の基礎理論ーKenneth Goodmanの理論とwhole languageー」,『兵庫教育大学研究紀要』,第16巻, pp.23-35
- 堀江祐爾(1997)「アメリカにおける<新しい>国語科学力評価の方法ー学習者の学びの過程と成果を蓄積するポートフォリオ評価ー」,『国語科教育』,第44集,pp.125-134
- 堀江祐爾(2002a)「高等学校における<新しい>評価の課題と実践例ー教師だけの「評価」から「複眼的評価」へー」,『日本語学』,第21巻第7号,pp.34-48.
- 堀江祐爾(2002b)「第1章 国語」,田中耕治編『新しい教育評価への挑戦 新しい教育評価の理論と方法[II]教科・総合学習編』,日本標準,pp.3-55
- 堀江祐爾(2010)「単元学習における教育としての評価ー言語活動支える指導と評価の一体化ー」,日本国語教育学会編『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造 I 理論編』東洋館出版 pp.100-111
- 堀江祐爾(2013)「国語科における「言語活動」と<パフォーマンス評価>との関係」,『月刊国語教育研究』No.491,pp.28-31
- 増田信一(2010)「「読書力」の評価をどうするか」,『教育科学国語教育』,2010年3月臨時増刊号,pp.86-88
- 益地憲一(1993)『国語科評価の実践的探求』,溪水社.
- 益地憲一(2002a)『国語科指導と評価の探究』,溪水社.
- 益地憲一(2002b)「4 国語科評価論の成果と展望」,全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望』,明治図書,pp.39-46
- 益地憲一(2013)「4 国語科評価論に関する研究の成果と展望」,全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望II』,pp.39-46
- 間瀬茂夫(1995)「説明的文章指導における方略教授の有効性ー文章構造の把握を中心にー」,『国語科教育』,第42集,pp.103-112
- 間瀬茂夫(1997)「米国の国語教科書における<方略的読み>の指導観」,『語文と教育』,第11号,pp.(1)-(12)
- 間瀬茂夫(2010)「V 国語の力の育ちをどのように評価するか 1 評価の目的と主体」,全国大学国語教育学会編『新たな時代を拓く中学校高等学校国語科教育研究』,学芸図書,pp.216-220
- 間瀬茂夫(2013)「理解方略指導研究」,全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望II』,学芸図書,pp.233-240
- 松崎正治・荻野伸(1993)「物語文の理解と記憶におけるメタ認知方略の効果と発達」,『国語科教

- 育』,第40集,pp.35-42
- 松崎正治(1996)「児童・生徒も評価するー関係の変革ー」,『月刊国語教育研究』,No.285,pp.4-9
- 松下佳代(2007)『パフォーマンス評価-子どもの思考と表現を評価する-』,日本標準.
- 松下佳代(2010a)「学びの評価」佐伯胖監修・渡部信一編『「学び」の認知科学事典』大修館書店,pp.442-458
- 松下佳代編著(2010b)『〈新しい能力〉は教育を変えるのかー学力・リテラシー・コンピテンシーー』ミネルヴァ書房.
- 松下良平(2000)「自生する学びー動機づけを必要としないカリキュラムー」,グループ・ディダクティカ(編)『学びのためのカリキュラム論』,頸草社,pp.236-255
- 松下良平(2002)「教育的鑑識眼研究序説ー自律的な学びのためにー」,天野正輝(編)『教育評価論の歴史と現代的課題』,晃洋書房,pp.212-228
- 松友一雄(1997)「読む力の評価ー読みの構えを中心にー」,『教育学研究紀要』,第43巻第2部,pp.55-60
- 松友一雄(1998)「読む力の形成過程と問題処理能力ー授業時とテスト時の異なりに関してー」,『教育学研究紀要』,第44巻第2部,pp.85-90.
- 松友一雄(2005)「学習者の言語活動をとらえる評価活動」,『国語科研究紀要』第36号,pp.38-46
- 松友一雄(2011)「言語活動の質を捉える評価方法に関する研究」,『国語国文学』第50号,pp.63-72
- 松友一雄(2013)「読むことの学習に関する評価研究」,全国大学国語教育学会(編)『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』学芸図書,pp.241-248
- 三浦和尚(2004)「評価研究の意義と方法」,倉澤栄吉・野地潤家監修『朝倉国語教育講座5 授業と学力評価』,朝倉書店,pp.106-125
- 宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭(2004)『総合と教科の確かな学力を育む ポートフォリオ評価法ー「対話」を通して思考力を鍛える!ー』,日本標準.
- 宮本浩子(2013)「思考力・表現力・判断力を育むパフォーマンス評価ー小学校第3学年物語教材での実践を中心にー」『月刊国語教育研究』,No.491,pp.32-35
- 耳塚寛明・牧野カツコ編著(2007)『学力とトランジションの危機ー閉ざされた大人への道ー』,金子書房.
- 村井万里子(2010)「考える「実の場」としての読書」,望月善次編『国語科教育学はどうあるべきか』,明治図書,pp.99-101
- 望月実(2011)「「生きて働く学力育成のフレーム」と「3つの対話」のコラボで読む授業をつくる」,田中耕治編著『パフォーマンス評価ー思考力・判断力・表現力を育む授業づくりー』,ぎょうせい,pp.44-53
- 山本茂喜(1999)「国語科単元学習におけるポートフォリオ評価の方法ー米国における実践を中心にー」,『香川大学国文研究』,第24号,pp.42-52
- 山本茂喜・香川尚子(2002)「国語科単元学習におけるポートフォリオ評価の有効性について」,『香川大学国文研究』第27号,pp.9-20
- 山元隆春(1991)「読書指導の現状と課題」,藤原和好(編著)『国語教育の現状と課題』,日本書籍,pp.53-70
- 山元隆春(1994)「読みの「方略」に関する基礎論の検討」,『広島大学学校教育学部紀要 第I部』,第16巻,pp.29-40
- 山元隆春(1998)「訳者解説」,リチャード・ビーチ著/山元隆春訳『教師のための読者反応理論入門ー読むことの学習を活性化するためにー』,溪水社,pp.309-334
- 山元隆春(2004)「「自立した読者」を育てる足場づくりー米国における理解方略指導論を手がか

- りとして」,『学校教育実践学研究』,第10巻,pp.219-228
- 山元隆春(2005)『文学教育基礎論の構築－読者反応を核としたリテラシー実践に向けて－』,溪水社
- 山元隆春(2007)「書物への没頭/わたくしの非在－読書体験成立の条件－」,『月刊国語教育研究』,No.423,pp.6-11
- 山元隆春(2009)「「読解力」育成のための支援に関する基礎的研究－米国の理解方略指導論を中心に－」,全国国語教育学会編『国語科教育研究第117回愛媛大会研究発表要旨集』,pp.204-207
- 山元隆春(2010)「習得・活用・探究の言語活動と単元学習」,日本国語教育学会編『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造 I 理論編』,東洋館出版,pp.144-155
- 山元隆春(2011)「理解するとはどういうことなのか－Keen(2008) *To Understand* を手がかりとして－」,全国国語教育学会編『国語科教育研究第120回京都大会研究発表要旨集』,pp.97-100
- 山元隆春(2014)『読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり』,溪水社.
- 吉田新一郎(2010)『「読む力」はこうしてつける』新評論.
- 吉田新一郎・岩瀬直樹(企画)・小坂敦子(協力)・プロジェクト・ワークショップ編(2014)『読書家の時間－自立した読み手を育てる教え方・学び方－【実践編】』新評論.
- 吉田裕久(1997)「「学力から出発する国語科授業」の実践例(1)－「この本をあの人に」(読書を身近に)のばあい－」,『実践国語研究』,No.177,pp.121-126
- 吉田裕久(2006)「読解力と「読解力」(Reading Literacy)－書くことによって読解力を育む－」,『教育科学国語教育』,2006年2月号,明治図書,pp76-79.
- ロビンス,アーリン(1982)「技巧的な読者が意欲的な読者になり得るか その1 試案」,『読書科学』Vol.26, No.1,pp.37-39
- 脇明子(2005)『読む力は生きる力』,岩波書店.
- 脇明子・小幡章子(2011)『自分を育てる読書のために』,岩波書店.
- 渡邊久暢(2011)「高校国語科評論文における読解方略指導のあり方－学習者による「ふりかえり」に焦点をあてて－」,『福井大学教育実践研究』第36号, pp.1-12.

【翻訳】

- ディラン・ウィリアム著,有本昌弘訳(2013)「形成的アセスメント:効果的な学習環境における役割」,OECD 教育研究革新センター編著,立田慶裕・平沢安政監訳『学習の本質－研究の活用から実践へ－』,明石書店,pp.159-188
- OECD 教育研究革新センター編著,有本昌弘監訳(2008)『形成的アセスメントと学力』,明石書店.
- スティーブン・クラッシュン著,長倉美恵子・黒澤浩・塚原博共訳(1996)『読書はパワー』,金の星社.
- 経済協力開発機構著,国立教育政策所監訳(2010)『PISA2009年調査 評価の枠組み－OECD生徒の学習到達度調査－』,明石書店.
- エドワード・L・デシリチャード・フラスト著,桜井茂男訳(1999)『人を伸ばすカー内発と自律のすすめ』,新曜社.
- U・ナイサー編,富田達彦訳(1988)『観察された記憶－自然文脈での想起－(上)』,誠信書房.
- U・ナイサー編,富田達彦訳(1989)『観察された記憶－自然文脈での想起－(下)』,誠信書房.
- 米国学術研究推進会議編著,森敏昭・秋田喜代美監訳(2002)『授業を変える－認知心理学のさらなる挑戦－』,北大路書房.
- ロジャー・ハート著,木下勇,田中治彦,南博文監修/IPA 日本支部訳(2000)『子どもの参画－コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際－』,萌文社.

- R・ビーチ著,山元隆春訳(1998)『教師のための読者反応理論入門－読むことの学習を活性化するために－』,溪水社
- B・S・ブルーム他著,梶田叡一・渋谷憲一・藤田恵爾(1973)『教育評価法ハンドブック－教科学習の形成的評価と総括的評価－』,第一法規.
- T・E・ラファエル, L・S・パドル, K・ハイフィールド著/有元秀文訳(2012)『言語力を育てるブッククラブ－ディスカッションを通じた新たな指導法』,ミネルヴァ書房.
- ジーン・レイヴ, エティエンヌ・ウエンガー著/佐伯胖訳(1993)『状況に埋め込まれた学習』産業図書.
- バーバラ・ロゴフ著/當眞千賀子訳(2006)『文化的営みとしての発達－個人、世代、コミュニティー』新曜社.

【英文】

- Afflerbach, P.(1995)Engaged Assessment of Engaged Reader, Baker, L., Afflerbach, P., Reinking, D.(ed)*Developing Engaged Readers in School and Home Communities*, Lawrence Erlbaum Associates, pp.191-214.
- Afflerbach, P.(1998)Reading Assessment and Learning to Read, Osborn, J. & Lehr, F.(1998)*Literacy for all-ISSUES IN TEACHING AND LEARNING-*, The Guilford Press, pp.239-263.
- Afflerbach, P.(2002)Teaching Reading Self-Assessment Strategies, Blockm C.C. & Plessley, M. (eds)*Comprehension Instruction: Research -Based Best Practices*, The Guilford Press, pp.96 -111.
- Afflerbach, P.(2007)*Understanding and Using Reading Assessment, K-12*, International Reading Association.
- Afflerbach, P.(ed)(2010)*Essential readings on assessment*, International Reading Association.
- Afflerbach, P.(2012)*Understanding and Using Reading Assessment, K-12(2nd Edition)*, International Reading Association.
- Afflerbach, P., Cho, B., Kim, J., Clark, S.(2010) Classroom assessment of Literacy, Wyse, D., Andrews, R., Hoffman, J.(ed)*The Routledge International Handbook of English, Language, and Literacy Teaching*, Routledge, pp.401-411
- Atwell, N(2008)Foreword, Sibberson, F & Szymusiak, K.(2008)*Day-to-Day Assessment in the Reading Workshop-Making Informed Instructional Decisions in Grades 3-6*-,SCHOLASTIC,pp.5-6
- Black, P. & William, D.(1998)Inside the Black Box-Rising standard through classroom assessment, *Phi Delta Kappan*, vol. 80,Issue3, pp.139-148
- Bomer, R. & Bomer, K.(2001)*For Better World-Reading and Writing for Social Action*, HEINEMANN.
- Brookhart, S.M., Moss, C.M. & Long, B.A.(2010)Teacher inquiry into formative assessment practices in remedial reading classrooms, *Assessment in Education: Principles, Policy & Practice* ,Vol.17,No.1,pp.41- 58.
- Bruce, B.C., Osborn, J. & Commeyras, M.(1993)*The Content and Curricular Validity of THE 1992 National Assessment of Educational Progress in Reading*, College of Illinois at Urbana-Champaign 174 Children's Research Center.
- Callkins, L.M.(2001)*The Art of Teaching Reading*, Longman.(ルーシー・カルキンズ著,吉田新一郎・小坂敦子訳(2010)『リーディング・ワークショップ -読むことが好きになる教え方・学び方』,新評論.)

- Chambers, A.(1966) *Tell me: Children, reading and talk*, Stenhouse Publishers.(エイダン・チェインバーズ著,こだまともこ訳(2003)『みんなで話そう、本のこと—子どもの読書を変える新しい試み—』 柏書房.)
- Cizek, G. J.(2010)An Introduction to Formative Assessment, Andrada, H. L. & Cizek, G. J.(ed)*Handbook of Formative Assessment*, Routledge,pp.3-17
- Donohue, L.(2008)*Independent Reading Inside the Box*, Pembroke.
- Duke, N.K. & Pearson, P.D.(2003)Effective Practices for Developing Reading Comprehension, Frastrup, A.E. & Samuels, S.J.(ed) *What Research Has to Say About Reading Instruction(Third Edition)*, International Reading Association,pp.205-242
- Fielding, L. G. & Pearson, P. D.(1994)Reading Comprehension: What Works, *Educational Leadership*, vol.51,No.5,pp.62-68.
- Fox, E(2009)The Role of Reader Characterisitics in Processing and Learning From Infromational Text, *Review of Educational Research*, Spring 2009, Vol.79, No.1,pp.197-261
- Galda, L. & Graves, M.(2007)*Reading and Responding in the Middle Grades-Approaches For All Classrooms-*, Pearson Education.
- Galda, L & Liang, L.A.(2003)Literature as experience or looking for facts-Stance in the classroom-, *Reading Research Quarterly*, Vol.38,No.2, pp.268-275.
- Gipps, C.(1994)*Beyond Testing*, The Falmer Press. (キャロライン・V・ギップス著,鈴木秀訳 (2001)『新しい評価を求めて テスト教育の終焉』,論創社.)
- Harrison, C.(2004)*Understanding Reading Development*, SAGA.
- Harrison, C., Bailey, M., Dewar, A.(1998)*Responsive Reading Assessment: Is postmodern assessment of reading possible?*, Harrison, C., & Salinger, T.(1998)*Assessing Reading ①: International perspectives on reading assessment*, Routledge, pp.1-20
- Harvey, S. & Goudvis, A.(2007)*Strategies that Works (Second Edition)*, Stenhouse.
- International Reading Association & National Council of Teachers of English (1996)*STANDARDS for the ENGLISH LANGUAGE ARTS*, International Reading Association &National Council of Teachers of English.
- International Reading Association &National Council of Teachers of English Joint Task Force on Assessment (1994)*Standards for the Assessment of Reading and Writing*, International Reading Association &National Council of Teachers of English.
- International Reading Association(2009)Setting the Standards, *Reading Today*, Vol.27, Issues.3, p.10.
- International Reading Association &National Council of Teachers of English Joint Task Force on Assessment (2010)*Standards for the Assessment of Reading and Writing (Revised Edition)*, International Reading Association &National Council of Teachers of English
- International Reading Association(2013)*Formative Assessment - A Position Statement Of The International Reading Association -*, International Reading Association.
- Johnson, J.C.(2005) What makes a “good” reader? Asking student to define “good” readers ,*The Reading Teacher*, Vol.58,No.8, pp.766-773.
- Johnston, P.H.(2004)*Choice Words*, Stenhouse.
- Keene, E.O.(2006)*Assessing Comprehension Thinking Strategy*, Shell Education.
- Keene, E.O.(2008)*To Understand*, Heinemann.
- Keene, E.O.(2012)*Talking about Understanding*, Heinemann.
- Keen, E.O. & Zimmermann, S.(1997)*Mosaic of Thought-Teaching Comprehension in*

- Reader's Workshop*, Heinemann.
- Keen, E.O. & Zimmermann, S.(2007)*Mosaic of Thought-The Power of Comprehension Strategy Instruction-(Second Edition)*, Heinemann.
- Landrigan, C. & Mulligan, T.(2013)*Assessment in Perspective-Focusing on the Reader Behind the Numbers*, Stenhouse.
- Langer, J. A.(1986)*CHILDREN READING AND WRITING-Structures and Strategies-*, Ablex Publishing Corporation.
- Langer, J. A.(1989)The Process of Understanding Literature, Report Series 2.1, National Research Center Teaching and Learning.
- Langer, J. A.(1990)The Process of Understanding :Reading for Literary and Informative Purposes, *Research in the Teaching of English*, Vol24, No.3.
- Langer, J. A.(1991)*Literary Understanding and Literature Instruction, Report Series 2.11*, National Research Center Teaching and Learning.
- Langer, J. A. (1994)A Response-Based Approach to Reading Literature, Report Series 6.7, National Research Center Teaching and Learning.
- Langer, J. A. (1995)*Envisioning Literature-Literary Understanding and Literature Instruction-*, Teachers College Press.
- Langer, J.A.(2011a)*Envisioning Literature-Literary Understanding and Literature Instruction-(2nd edition)*, Teachers College Press.
- Langer, J.A.(2011b)*Envisioning Knowledge – Building Literacy in the Academic Disciplines*, Teachers College Press.
- Leipzig, D.H., & Afflerbach, P(2000)Determining the Suitability of Assessments-Using the CURRV Framework -, IN Barker, L., Dreher, M.J., Guthrie, J.T.(ed)*Engaging Young Readers -Promoting Achievement and Motivation-*, The Guilford Press, pp.159-187.
- Leslie, L., Jett-Simpson, M & Wisconsin State Reading Association(1997)*Authentic Assessment: An Ecological Approach*, Longman.
- Liang, L. A. & Galda, L.(2009)Responding and Comprehending-Reading With Delight and Understanding-, *The Reading Teacher*, Vol.63, No.4, pp.330-333.
- McTiche, J. & Wiggins, G.(2004)*Understanding by Design Professional Development Workbook*, ASCD.
- Meyer, C.(1992)What's the Difference Between Authentic and Performance Assessment?, *Educational Leadership*, 49(8),pp.39-40.
- NAGB(2002)*Reading Framework for the 2003 National Assessment of Educational Progress*, NAGB.
- NAGB(2008)*Reading Framework for the 2009 National Assessment of Educational Progress*, NAGB
- Pearson, P.D. & Gallagher, M.C.(1983)The Instruction of Reading Comprehension, *Contemporary Educational Psychology*, Vol.8,pp.317-344
- Pearson, P. D. & Hamm, D. N. (2005) Assessment of Reading Comprehension, Paris, S. G. & Stahl, S. A. (ed)*CHILDREN'S READING COMPREHENSION AND ASSESSMENT*, Lawrence Erlbaum Association,pp.13-69
- Pardo, L.S.(2004)'What every teacher needs to know about comprehension, *The Reading Teacher*", Vol.58, No.3, pp.272-280.
- Pfeiffer, T.M., Wessberg, J(2013)*Heart of Conferring*, Authorhouse.
- Perkins, D.(1993)Teaching for Understanding, *American Educator*, 17(3),pp.823-835.
- Pressley, M. & Afflerbach, P.(1995)*Verbal Protocols of Reading: The Nature of*

- Constructively Responsive Reading*, Lawrence Erlbaum Associates.
- Pressley, M. & Hilden, K. (2004) Verbal Protocols of Reading, Duke, N. K. & Mallette M. H.(ed)(2004) *Literacy Research methodologies*, The Guilford Press, pp.309-321.
- Sainsbury, M.(2003) Thinking aloud: children's interactions with text, *Reading literacy and language*, November 2003, pp.131-135.
- Santman, D.(2005) *Shades of Meaning -Comprehension and Interpretation in Middle School-*, Heinemann.
- Schipper, B. & Rossi, J(1997) *Portfolios in the classroom: tools for learning and instruction*, Stenhouse Publishers.
- Scott, D.B.(2008) Assessing Text Processing: A Comparison of Four Methods, *Journal of literacy research*, Vol.40, No.3, pp.290-316
- Serafini, F.(2010) *Classroom Reading Assessments-Make Efficient Ways to View and Evaluate Your Readers-*, Heinemann.
- Sibberson, F. & Szymusiak, K.(2008) *Day-to-Day Assessment in the Reading Workshop-Making Informed Instructional Decisions in Grades 3-6-*, SCHOLATIC.
- Towel, W.(2000) The Art of Reading Workshop, *Educational Leadership*, Vol.58, No.1, pp.38-41.
- Valencia, S.W., Hiebert, E.H, Afflerbach, P.P.(1994) *Authentic Reading Assessment: Practices and Possibilities*, International Reading Association.
- Walczyk, J.J.(2000) The interplay between automatic and control processes in reading, *Reading Research Quarterly*, Vol.35, No.4, pp.554-566.
- Wiggins, G.(1989) A True Test-Toward more authentic and equitable assessment-, *Phi Delta Kappan*, 70(9), pp.703-713.
- Wiggins, G. & McTiche, J.(2005) *Understanding by Design Expanded 2nd Edition*, Pearson Education.(G.ウィキンズ/J・マクタイ著,西岡加名恵訳(2012)『理解をもたらすカリキュラム設計—「逆向き設計」の理論と方法—』日本標準.)
- Zygouris-Coe, V., Wiggins, M.B., Smith, L.H.(2004/2005) Engaging students with text: The 3-2-1 strategy, *The Reading Teacher*, Vol.58, No.4, pp.381-384.

【URL】

- アメリカ合衆国教育省「落ちこぼれを作らないための初等中等教育法」(<http://www2.ed.gov/policy/elsec/leg/esea02/107-110.pdf>)
- 文部科学省「子どもの読書活動推進ホームページ」(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/001.htm)
- 文部科学省「平成16年初等中等教育分科会(第31回)議事録の参考資料4」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/04122101/005.htm)